

# 2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
①各種学力調査に基づき、児童の学力の実態を把握し、具体的な学力向上に関する指導法の工夫・改善を検討する。 ②できる喜び(基礎的・基本的な知識・技能)を味わわせるために、読解力の育成に重点をおくことやQubena等の効果的な活用を図る。 ③わかる楽しさ(思考力・判断力・表現力)を感じられようとするために、各教科における学習活動に、対話的な学習活動を積極的に取り入れる。 ④読書活動の充実を図り、読書量や語彙量を増やすとともに、積極的に授業の中で図書資料を活用させ、文章読解力や資料活用能力の育成を図る。また、主体的な学びに対する興味・関心を高め、自学自習しようとする態度形成を図る。 ⑤各教科の授業の中で、積極的にICT機器(Chromebook)を活用し、児童の情報の収集・活用・処理に関する能力を高めるとともに、プログラミング教育に関する力を育成する。 ⑥外国語活動及び外国語科の充実を図り、主に英語に関する4つの技能(話す、聞く、読む、書く)についての初歩的なスキルを身に付けさせる。 ⑦家庭との連携を図り、家庭学習の習慣を確立するとともに、既習事項の定着と習熟を図る。

授業改善の重点
①各種学力調査や学習評価から、児童の課題を把握し、課題を解決するための手立てをたてる。 ②児童が主体的に学べるよう、児童の興味・関心が高められ、自学自習しようとする態度の形成を図る。 ③Qubena等を積極的に活用して、できる喜び(基礎的・基本的な知識・技能)の育成を図る。 ④対話的な学習活動を積極的に取り入れ、児童の意見交流や集団思考の場を設定することで、わかる楽しさ(思考力・判断力・表現力)の育成を図る。

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	○基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けさせるために、モジュールの時間を使い、漢字学習を行い言語の知識を豊かにする。 ○スピーチや音読を通して、話す・聞く力を身に付けさせる。 ○単元のゴールを見据えた授業構成により、表現力の育成を図る。	○友だちとかかわりながら、体を使ってリズムを楽しんだり、音を楽しんだりする活動を通して、進んで音楽にかかわる態度を育て、音楽活動への意欲を高める。 ○音楽づくりの活動や、表現を工夫する活動を通して思いや意図をもって表現できる力を養う。	○自ら課題を見付け、解決しようとする態度を育成するために、ゲストティーチャーや校外学習など、地域を活かした学習を取り入れる。 ○70時間を1単位とし、児童自身が、主体的・協働的に学習できるよう工夫する。	○教科書の題材を中心にしながら、児童一人一人が本音を語りながら価値観を高め、今までの自己をふり返り、見つめ直せるような授業展開を工夫する。 ○児童の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的实践意欲と態度の向上を促す場を積極的に用意し、道徳的实践力を育成する。
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	○新聞やインターネットを活用して、身の回りの出来事に関心をもたせ、社会的事象や、東京都や町田市の様子などを、身近に捉えられるようにする。 ○資料やグラフを効果的に活用した新聞づくりやレポートづくりを通して、調べたことを表現する力を育成する。	○形や色、材料などを生かしながら、進んで表現したり、鑑賞したりする態度を育て、見たことや感じたことを表現し、つくる喜びを味わうことで豊かな上層を培う。 ○自ら考え、試行錯誤する場面や、友達と意見を共有したり、協力する場面を多く設定することで主体的、対話的に学ぶ態度を育む。	○学級活動や集会活動を充実させることにより、望ましい人間関係を形成し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。	学年の発達段階に応じて、主に英語に関する4つの技能(話す、聞く、読む、書く)についての初歩的なスキルを身に付けさせる。また、ALT等人材活用により、外国の文化に対する理解を深め、国際交流の大切さを学習させる。
	算数科	家庭科		
	○基礎的・基本的な概念や性質を理解させるために、Qubenaやデジタル教科書を活用していく。また、習熟度別少数指導のグループをレディネステストにより適切に行う。 ○筋道を立てて考察する力、統合的・発展的に考察する力、物事を簡潔・明瞭・的確に表現する力を育成するために、解決の課程や結果を振り返ることができるような学習を展開していく。	○実践的・体験的な活動を多く取り入れて、基礎的な知識や技能を身につけさせる。 ○学習したことを家庭で実践する機会を設けることで技能を定着させ、実践的な態度を育てる。		
	理科	体育科		
	○見通しをもって実験・観察を行い、その結果から考察する活動を確実にし、科学的なものの考え方を身に付けさせる。 ○日常生活の中から学習内容を想起したり、教師が日常でみられる現象を児童に示したりして考えさせることで、自然現象への多面的理解力を育成する。	○全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力向上につながるようにする。 ○オリンピック・パラリンピックレガシーを継承し、児童の発達段階に応じたルールやマナーを遵守することの大切さやスポーツの意義や価値などに触れるようにする。		
生活科	外国語科(5・6年生)			
○自ら課題を見付け、解決しようとする態度を育成するために、ゲストティーチャーや校外学習など、地域を活かした学習を取り入れたりする。 ○「つくる」「育てる」などの具体的な体験活動から児童自身が、主体的・協働的に学習できるよう工夫する。	○子供の意欲を引き出すために、多様な題材を扱う。 ○子供たちが触れる英語の質と量を確保し、確かなコミュニケーション力を育てる。			

	ICT機器の活用	見通しをもたせる導入	価値ある対話の共有
本校の授業改善に向けて	授業内において、Googleドキュメントやスライドを使ってペアやグループなどの学習形態で課題解決や発表資料を作成する。ジャムボードを使用し、児童が互いの考えを確かめ合う時間を個々で十分に確保しながら、その中で、自分の考えと相手の考えを比較したり、統合したりするなどの観点をもたせ、物事を関連付けながら深く理解できるようにしていく。体育科では、個人の運動を撮影し、その場で確認したり、理科では、実験をMEETで行ったりすることで、密を避けた学習を可能とする。また、集会活動や係活動においても、スライドでの発表やスプレッドシートでのアンケート集計などでICT活用を図っていく。	新学習指導要領の実施に伴う「主体的・対話的で、深い学び」に関わる各教科の授業改善を図るための授業研究を行う。 校内研究の生活科や総合的な学習の時間を中心とし、1単位時間の終わりに次の活動を児童らが自ら見いだせるように時間や手立てを講じたり、導入において活動の順番等の提示を行い、他教科にも生かしていく。 児童が新たな単元に取り組んでいく際に、何を学ぶべきかが明らかにすることで、児童自らが主体的に活動できるような態度を生み出していく。 また、毎時間の授業のめあてをしっかりと提示することや学習の流れを習慣化することで、児童が安心して授業に望める環境づくりを行っていく。	授業内において、ペアやグループなどの学習形態を活用し、児童が互いの考えを確かめ合う時間を十分に確保する。その中で、自分の考えと相手の考えを比較したり、統合したりするなどの観点をもたせ、物事を関連付けながら深く理解できるようにしていく。学習形態の工夫を行う際には、話し合うという形態のみならず、相手の考えが分かり合えるような媒体を活用していく。(Chromebookの活用やワークシートの活用) 互いの考えが交流し合えるように、児童一人一人が自分の考えをもつことが大切であることから、机間指導による考えの価値付けや助言の充実を図る。